環境省重要生態系監視地域モニタリング推進事業



モニタリングサイト1000 里地　調査マニュアル

植物相

Ver.4.0 (2026. Nov.)

植物相

鳥類
中・大型哺乳類
カヤネズミ
カエル類
チョウ類
ホタル類
植生図

環境省　自然環境局
生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

公益財団法人
日本自然保護協会
Nature Conservation Society of Japan

植物相調査

目　　的	この調査ではその地域に生育する植物相（植物種のリスト（＝フロラ））を長期的にモニタリングし、それを通じて地域の生態系の特徴を把握するとともに、開発や管理放棄による環境の変化や外来種の侵入の程度などを把握することを目的とします。
時　　期	毎月 1 回 積雪やその他の理由で調査地への立ち入りが困難な場合は、調査を実施しない月を設定してください。冬期にしか記録されない植物がほとんどない場合については、冬期の調査は行わなくて構いません。
調査方法の概　　要	調査ルート上で確認された植物の種名と有性繁殖器官（つぼみ・花・実・胞子）を記録します。記録の対象となる植物は、草本植物（種子植物とシダ植物）全てです。 ※同定の困難なグループ（シダ植物、イネ科、カヤツリグサ科など）は、アドバイスを得られる専門家がいない場合には調査対象から除外しても構いません。 ※植栽されていることが明らかな園芸品種、野菜などは記録しません。 ※木本種は、花や実の確認が困難なため基本的には調査対象から除外しますが、興味があれば含めても構いません。
必要な道具	□ 調査記録用紙（PDF 形式の記録用紙をプリントしてお使いください） □ 白地図（1 /25,000～1 /5,000 程度の縮尺。4 ページに見本があります） □ 植物図鑑　　□ ビニール袋（未同定標本の一時保存用） □ 画板　　□ カメラ（未同定種の撮影用） □ 筆記用具　　□ 双眼鏡（必要であれば）
提　出　物	初年度のみ（変更が生じた場合には再度提出） □ 調査ルートと各区間の境界を書き込んだ地図 （4 ページ参照。できれば JPG 形式などの電子データとして提出） 毎年 1 月末 □調査結果を入力した電子データ ※事務局から配布する「結果入力用フォーム」（Excel 形式）を使用。 提出方法 連絡担当者が他の調査項目の結果提出と一括して行い、翌年 1 月末に一年分（1 月～12 月）の調査データを提出してください。

はじめに

植物は、光合成によって有機物を生産し、生態系の食物連鎖の土台となっています。また、草原や森林といった特有の構造をもつ群落を形成することで、他の動物に多様な生息空間を提供します。さらに、特定の動物種の餌や宿主となったり、逆に花粉のやりとりや種子の散布を動物に依存するなど、他の生物と様々な繋がりをもっています。上記のような観点から、植物は生態系の基盤をなす重要な要素であるといえます。

また、植物は動物と異なり自ら動くことができないため、それぞれの種が異なる気候や水分・土壌・光条件、倒木や洪水などの自然のかく乱・人間の伝統的管理などの環境条件に適応して生育しています。そのため、気候の変化、人為的な開発、伝統的な働きかけの停止（休耕や森林管理放棄)、外来種の侵入などによって引き起こされる環境の微妙な変化に反応して出現・消滅するため、環境変化の指標となります。

この調査ではその地域に生育する植物相（植物種のリスト（＝フロラ））を長期的にモニタリングし、それを通じて地域の生態系の特徴を把握するとともに、開発や管理放棄による環境の変化や外来種の侵入の程度などを把握することを目的とします。

植物相の調査にはさまざまな方法が考えられますが、この調査では自然観察会のように定められたルートを定期的に歩いて植物の種名を記録する「トランセクト法」という方法で行います。この方法では、「高い精度で調査を行うことよりも、同じ精度で継続的に植物相を記録すること」を第一に優先しています。また、この調査方法では主に草本植物相の有性生殖期（花や実など）を正確に把握することを主眼に実施します。草本植物は、樹木に比べて環境の変化に対して短時間で反応する種も多く、また花や実によって確実な同定が可能であるため、モニタリングに適しているからです。

調査ルートと区間の設定

調査ルートの設定

まずは、調査ルートを設定します。すでに自然観察会等で歩くルートが決まっている場合には、それを調査ルートとして利用するとよいでしょう※1。

理想的には、調査地域内に生育している植物種をできるだけ多く記録できるよう、多様な景観タイプを含むように調査ルートを設定することが望まれます。例えば、森林内、林縁、水田、休耕田、ため池、湿地、草地、市街地などの代表的な環境（下表参照）はもちろんですが、同じ森林内でも針葉樹植林と広葉樹林など、できるだけ多くの景観タイプを含むようにルートを設定するとよいでしょう。

区間の設定

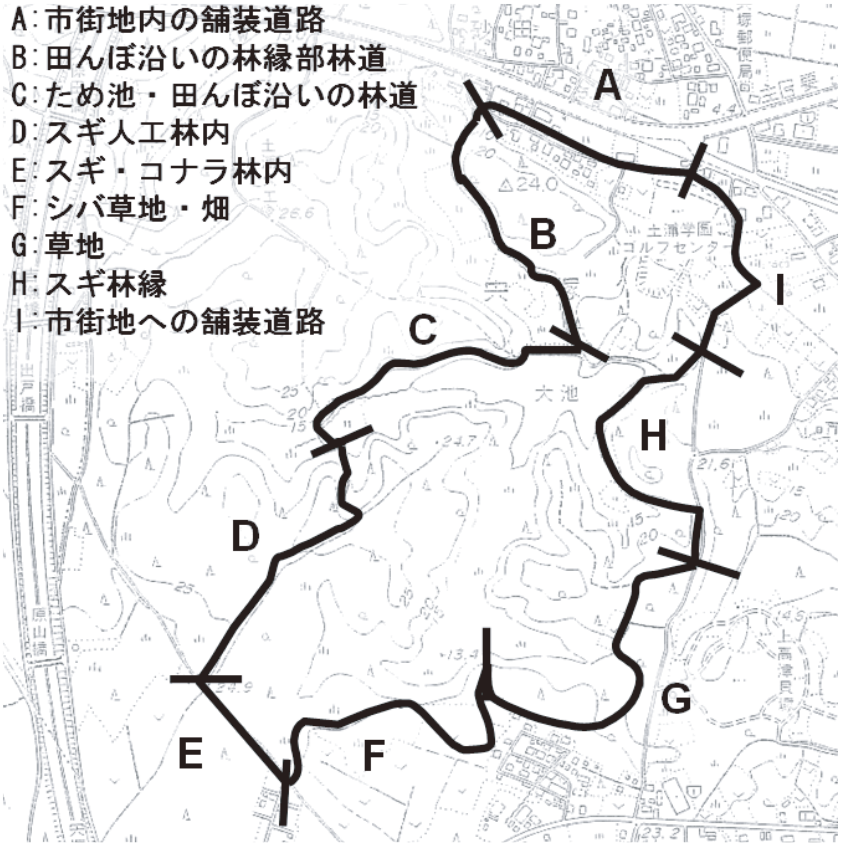
調査ルートを景観タイプに基づき、A、B、C といったようにいくつかの区間に区切ります。ただし、厳密に景観や植生に基づき多数の区間を設定しすぎると、調査労力が膨大になりますので、区間の数は多くても 10 を超えないようにしましょう。

次に、区間と環境変化の記録用紙（8 ページ参照）に調査区間名とそれぞれの区間上に含まれる主な景観タイプ（下表参照）を記録します。一年間の調査がおよそ終了したら、区間ごとの環境の概要や管理・人為的インパクト（人間活動による影響）の概要についても記入します。

景観タイプの例

- ●林内（落葉樹林、常緑樹林、針葉樹林、混交林、人工植林、竹林、灌木林など）
- ●林縁
- ●水田（休耕田を含む）
- ●草地（畑・果樹園やその耕作放棄地、荒れ地、放牧草地、採草地など）
- ●湿地（ヨシ原、放棄田、池沼、ため池を含む）
- ●市街地

※1　調査ルートが長すぎると調査を続けることが難しくなりますので、およそ 1 ～ 2 km、長くとも 3 km を越えない長さにしましょう。


A：市街地内の舗装道路
B：田んぼ沿いの林縁部林道
C：ため池・田んぼ沿いの林道
D：スギ人工林内
E：スギ・コナラ林内
F：シバ草地・畑
G：草地
H：スギ林縁
I：市街地への舗装道路
A
B
C
D
E
F
G
H
I

調査ルートの例

調査と記録の方法

調査手法

●調査は月に 1 回実施します※1。積雪やその他の理由で調査地への立ち入りが困難な場合は、調査を実施しない月を設定して下さい。冬期にしか記録されない植物がほとんどない場合についても、冬期の調査を行わなくても構いません。

●記録の対象となる植物は、草本植物（種子植物とシダ植物）全てです。また、このモニタリング調査では基本的には「つぼみや花や実（シダは胞子嚢）といった有性繁殖器官のついている種」だけを記録することとします※2。植栽されたものであることが明らかな園芸品種や野菜は記録しませんが、逸出して自生していると思われる場合は記録に含めます。

●調査では、ルート上で確認された植物の種名と有性繁殖器官を記録します。種名の記録は、できるだけルートの区間ごとに行ってください※3。その場合には、新しい区間に入るたびに、その日すでに別区間で記録された植物についても改めて記録していきます。

●現場で同定が困難な種については、周囲にたくさんある植物なら採取して標本にし、図鑑などで調べます※4。

●毎月の調査で記録される種は限られますが、1 年間続けることで主な草本植物種のリストができあがります。2 年目以降の調査では、あらかじめ月ごとの記録種名を 50 音順に印刷したチェックリストを自分たちで作成し、これを用いて調査してもよいでしょう。

●崖地や露頭などには、特有の植物がしばしば見られますが、このような場所では双眼鏡などを用いて確認するようにし、危険が予測される場合には立ち入らないようにしましょう。

※1　これより回数が多すぎると継続することが難しくなりますし、逆に間隔が開くと、花や実の時期を逃して見落としてしまう種数が多くなります。

※2　これにより、調査の労力を大幅に減らすとともに、同定ミスを減らすことも期待できます。もし同定が難しい場合には、シダ植物を省いてもかまいません。同じように、同定の困難なグループ（イネ科、カヤツリグサ科など）は、アドバイスを得られる専門家がいない場合には調査対象から除外してもかまいません。木本種は、花や実の確認が困難なため基本的には調査対象から除外しますが、興味があれば含めても構いません。

※3　区間ごとに記録を残すことで、環境の変化が生じた景観タイプや具体的な区間の場所を特定できることになります。

※4　採取する量は一株（樹木の場合は一枝程度）にとどめます。わずかしかない種は採取せず、写真で花や葉の形・付き方、根元の様子等を記録して、図鑑などで調べます。図鑑で調べてもわからない場合は、博物館などに標本や写真を持ち込んで専門家にみてもらいましょう。

モニ1000里地　植物相調査 調査記録用紙（フロラ）ver.4.0

サイト番号：S999　　サイト名：○○の里山

調査者名：○いなり山ポン太、あなぐまななこ
（主担当者に○、同定責任者に※）

調査日時：2027年 4月 25日（10：00 ～ 12：30）　　天気：晴れ

❶調査対象外とした種群：（木本）・イネ科・カヤツリグサ科・スゲ属・シダ植物・その他（アザミ属）

備考：B区間B'で畔の草刈りがされた直後。C区間は池の堤上の道が崩れており、今日は調査を断念した。D区間は記録できる種が1種もなかった。

（1 / 枚目/計 1 枚）

❷区間名	❸種名	❹花・実の有無	採取同定？※	備考
A	コハコベ？	（蕾）・（花）・実・胞子	採取・写真	ミドリハコベかも
↓	カタバミ	蕾・（花）・（実）・胞子	採取・写真	
	キジムシロ属 sp.	蕾・（花）・実・胞子	採取・写真	ミツバツチグリ？
↓	コモチマンネングサ	蕾・（花）・実・胞子	採取・写真	
B	カタバミ	蕾・（花）・実・胞子	採取・写真	
↓	オオバコ	（蕾）・（花）・実・胞子	採取・写真	
	ニョイスミレ	蕾・（花）・実・胞子	採取・写真	
	エキサイセリ	蕾・（花）・実・胞子	採取・（写真）	写真で同定
	ハルジオン	蕾・（花）・実・胞子	採取・写真	
	ヒメジョオン	蕾・（花）・実・胞子	採取・写真	
	スイバ	蕾・（花）・（実）・胞子	採取・写真	
↓	~~セリ科 sp.~~ ドクゼリ	蕾・（花）・実・胞子	（採取）・写真	採取同定
C	未調査 ❺	蕾・花・実・胞子	採取・写真	今回この区間は調査を中止
D	記録なし ❻	蕾・花・実・胞子	採取・写真	
E	カタバミ	蕾・（花）・実・胞子	採取・写真	
↓	ハルノノゲシ	蕾・（花）・実・胞子	採取・写真	
F	オニタビラコ	蕾・（花）・実・胞子	採取・写真	
	オランダミミナグサ	蕾・（花）・実・胞子	採取・写真	
↓	ミミナグサ	蕾・（花）・実・胞子	採取・写真	
	ヒメオドリコソウ	蕾・（花）・実・胞子	採取・写真	
↓	ノニガナ	蕾・（花）・実・胞子	採取・写真	
		蕾・花・実・胞子	採取・写真	
		蕾・花・実・胞子	採取・写真	
		蕾・花・実・胞子	採取・写真	
		蕾・花・実・胞子	採取・写真	

※採取同定？：「採取」採取してから同定・「写真」撮影をした写真から同定

調査記録用紙への記入例

記録時の注意

❶ **調査対象外とした種群**：調査対象外とした種群には○をつけ、どのような種群を調査対象または対象外としたかを忘れず記録してください。

❷ **区間名**：同じ種が複数の区間でみられる場合は、全区間にその種名を記録します。

❸ **種名**：同定に自信が無い種は種名の横に「？」を記入します。同定不可能な種は「イネ科 sp.」「スゲ属 sp.」など、科名や属名と sp.（未同定種の意味）を組み合わせて記入し、写真や標本を元に後日同定します。

❹ **花・実の有無**：主に同定精度の確認と、種ごとのおよその季節性を把握するための記録です。将来的な変化を読み解くためのデータになるため、蕾・花・実をできるだけ分けて記入します。

❺ **未調査**：調査ルートに行きつけない（崖崩れや積雪、クマ出没等）場合、該当する区間で調査が実施できなかったときには種名に「未調査」と記入します。

❻ **記録無し**：調査区間を調査したものの記録すべき種がなかった場合は種名に「記録無し」と記入します。

区間と環境変化の記録※1

❼ **調査区間名リスト**：調査した全区間名を記入します。

❽ **主な景観タイプ**：3 ページの景観タイプの例を参考に記入します。

❾ **区間の備考**：区間内やその隣接する場所での大きな環境の変化（開発・圃場整備等）、人間による管理形態の変化（林の手入れの停止、耕作放棄、復田など）、調査期間の途中に台風による崖崩れや通行止めなどがあった場合に、区間ごとに状況を記入します。

❿ **変化の有無**：全調査区間を対象に、過去およそ一年間に見られた項目の「変化の有無」を記入し、変化した内容や気づいたことは「備考」に記入します。

※1　調査区間を 10 区間以上記録する必要がある場合や、景観タイプや管理・人為インパクトなどにもっと記入するスペースが必要な場合には、「区間と環境変化・大容量版」のシートをご利用ください。

モニ1000里地　植物相調査　調査記録用紙（区間と環境変化） ver4.0

サイト番号・サイト名：S999　009里山

調査年：2027

❼ 調査区間名リスト	❽ 主な景観タイプ	区間の環境概要	管理・人為的インパクト	❾ 区間の備考
A	住宅地	民家の間を通る区間	民家が約30軒，最近の変化なし	
B	林縁，田	谷津田沿いに池まで続く農道	昨年から放棄4畑を復田，林は放棄	
C	湿地（ため池），林縁	ため池沿いの農道	林で民間団体による刈り取り管理	
D	林内（人工植林）	スギ林を抜ける林道	林業施行なし	
E	林内（人工植林，落葉樹林）	北側が雑木林，南側がスギ林の林道	特になし	
F	草地	芝畑を通る農道	火田作が継続	

全調査区間を対象に、過去およそ一年間に見られた環境変化についてご入力ください

項目	❿ 変化の有無	備考（変化した内容、気づいたことなどをご記入ください）
目立って増えた植物がある	(有) 無 不明	アカバナユウゲショウが区間Aで増えている
目立って減った植物がある	(有) 無 不明	ノウルシ群落が小さくなった
ナラ枯れが起こっている	有 無 (不明)	詳細に調べていない
調査地にシカが生息しているか	(有) 無 不明	
1年未満のものと考えられるシカの摂食痕が見られる	(有) 無 不明	昨年より増加している
1年未満のものと考えられるシカ以外の哺乳類の摂食痕が見られる	(有) 無 不明	イノシシの掘り返し，ホンシカの食痕があった
出現・発生時期に変化があった植物がある	(有) 無 不明	今年はウマノスズクサが見られなかった
調査対象以外の自然的要素（植生・気候・昆虫など）の変化がある	(有) 無 不明	ウマノスズクサが少なくなったのか，ジャコウアゲハが見られない．
調査地の管理状況、開発等の人為的変化がある	(有) 無 不明	農地の水路が土水路からコンクリートに変わり，周囲の乾燥化が心配
盗掘・採取圧がある	(有) 無 不明	カタクリが毎年盗掘される
その他気になる結果	全体に湿地性の植物が少ない印象。雨が少なかったのも影響しているかも。	

調査記録用紙への記入例

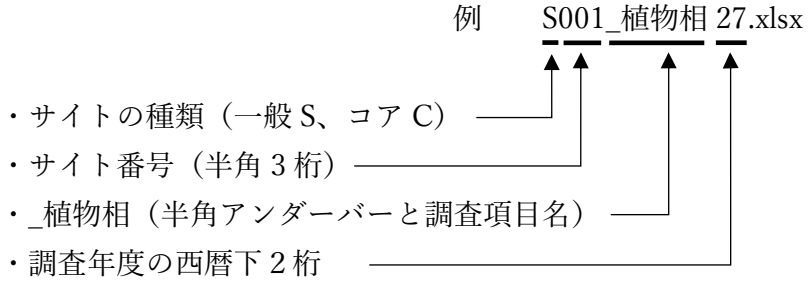
調査結果の入力

●現地調査が終了し、同定作業がすんだら、その月の記録を結果入力用フォーム（Excel 形式の電子ファイル）に入力します。一年分（1 月～12 月）のデータを同じファイルに入力してください。

●毎月の調査記録用紙（6 ページ）の結果は、その月の名前が付いたシートに入力します。

●区間と環境変化の記録（8 ページ）は、【区間と環境変化】シートに入力します。

●全国各地からデータが集まりますので、ファイル名を以下のように統一してください。



●入力を終えた電子データは、１年に１度連絡担当者を介して１月末までに提出してください。

入力時の注意

※詳細は結果入力用フォームの【入力例】および【入力＆エラー例】シートをご確認ください。

〈【区間と環境変化】シートの入力〉

❶ **赤い※印が付記された項目**：「必須項目」ですので、もれなく入力してください。

❷ **調査全体の備考**：調査全体を通じて特筆すべきことがあれば入力します。未調査のシーズンや調査月があった場合はその理由を入力します。

❸ **区間変更の有無**：昨年度までと比べたときの、区間名や調査ルートの変更の有無を入力します。変更有りの場合は変更理由を入力して、区間を修正した地図の提出をお願いします。

❹ **調査区間名リスト**：途中で調査しなくなった区間や追加した区間があるなど、一年を通しての調査区間が異なる場合は、結果入力用フォームの【最初にお読みください】シートをご参照ください。

❺ **環境変化**：全調査区間を対象に、過去およそ一年間に見られた環境変化の有無について入力します。

モニ1000里地　植物相調査【区間と環境変化】シート ver.5.00

注)※が付記された必須項目は漏れなく入力してください

【入力例】はこちら　⇒【チェック表】へ

入力状況	基本情報	区間名リスト	環境変化
	○	○	○

【環境変化】の入力項目はこちら

❶ サイト番号※	S999
サイト名	○○の里山
調査年※	2027
❷ 調査全体の備考	

区間について

❸ 区間の変更の有無※ 今調査年の調査において、これまでの区間名や調査ルートからの変更はありますか？	無	区間の変更理由 区間を変更する場合は、なるべくデータ提出前に事務局へ一度ご相談ください	

❹ 調査区間名リスト※	主な景観タイプ	区間の環境概要	管理・人為的インパクト	区間の備考 今調査年の調査期間中に変更（崖崩れで通行止め等）があった場合には変更した区間と、いつから変更したのか分かるようにお書きください
A	住宅地	民家の間を通る区間	民家が約30軒、最近の変化無し。	
B	林縁・田	谷津田沿いに池まで続く農道	昨年から放棄水田を復田、林は放棄	
C	湿地（ため池）、林縁	ため池沿いの農道	林で民間団体による刈り取り管理	
D	林内（人工植林）	スギ林を抜ける林道	林業施行なし	
E	林内（人工植林・落葉樹林）	北側が雑木林、南側がスギ林の林道	特になし	
F	草地	芝畑を通る農道	畑作が継続	

環境変化　　全調査区間を対象に、過去およそ一年間に見られた環境変化についてご入力ください

項目	❺ 環境変化の有無※	備考（変化した内容、気づいたことなどをご入力ください）
目立って増えた植物がある	有	アカバナユウゲショウが区間Aで増えている
目立って減った植物がある	有	ノウルシ群落が小さくなった
ナラ枯れが起こっている	不明	詳細に調べていない
調査地にシカが生息しているか	有	
1年未満のものと考えられるシカの摂食痕が見られる	有	昨年より増加している
1年未満のものと考えられるシカ以外の哺乳類の摂食痕が見られる	有	イノシシの掘り返し、カモシカの食痕があった
出現・発生時期に変化があった植物がある	有	今年はウマノスズクサが見られなかった
調査対象以外の自然的要素（植生・気候・昆虫など）の変化がある	有	ウマノスズクサが少なくなったのか、ジャコウアゲハが見られない
調査地の管理状況、開発等の人為的変化がある	有	農地の水路が土水路からコンクリートに変わり、周辺の乾燥化が心配
盗掘・採取圧がある	有	カタクリが毎年盗掘される
その他気になる結果	全体に湿地性の植物が少ない印象。雨が少なかったのも影響しているかも。	

【区間と環境変化】シートへの入力例

〈各調査月シートの入力〉

❶未調査のチェック：この回の調査をしなかった場合はチェックを入れてください。

❷調査対象種群：木本、イネ科、カヤツリグサ科、スゲ属、シダ植物などについて、調査対象または調査対象外を選択します。

❸種名：標準和名を全角カタカナで入力、または未調査、記録無しを入力します。

❹?/sp.：同定に自信が無い種は「？」を選択して入力します。同定不可能な種は「イネ科」「スゲ属」などを種名に入力して「sp.」を入力します。

❺ 種名チェック：種名を入力すると種名の判定がされます。判定に「同義語」と表示された場合には、標準和名の欄に書かれた種名からいずれかの種を選択して種名に入力します。「判定不能」と表示された場合は、入力ミスであるか、種名リストに載っていない種です。修正をするか、入力ミスでなければそのままで構いません。なお、「別名」と表示された場合には、修正は不要ですが右に書かれた標準和名がデータベースに記録されます。調査対象外の種だが参考に記録した種は、備考に参考と分かるよう記載してください。

モニ1000里地　植物相調査【4月】シート ver.6.00

注)※が付記された必須項目は漏れなく入力してください

【入力&エラー例】はこちら　⇒【チェック表】へ

入力状況	基本情報	調査対象種群	調査結果
	○	○	○

基本情報	❶ この月が未調査のときは✔ → ☐
サイト番号	S999
サイト名	○○の里山
調査年	2027
調査月※	**4**
調査日※	25
調査主担当者※	稲荷山ポン太
同定責任者※	稲荷山ポン太
その他参加者	あなぐまななこ
調査人数※	2
天気	晴れ
備考	区間Bで畔の草刈りがされた直後。C区間は池の堤上の道が崩れており今日は調査を断念した。D区間は記録できる種が1種もなかった。

調査対象種群 ❷	
木本※	対象外
イネ科※	対象外
カヤツリグサ科※	対象外
スゲ属※	対象外
シダ植物※	対象外
その他	アザミ属

調査結果

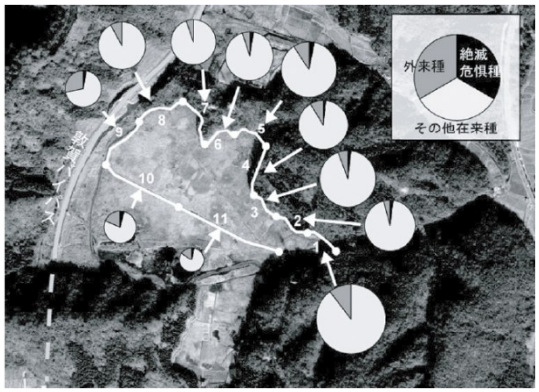
区間名※	❸ 種名※	❹ ? sp.	❺ 種名チェック 判定	標準和名	花・実の有無（該当するものに○） 蕾	花	実	胞子嚢	採取同定？	備考
A	コハコベ	?	標準		○	○				
A	カタバミ		標準			○	○			
A	キジムシロ属	sp.	分類群			○				ミツバツチグリ？
A	コモチマンネングサ		標準			○				
B	カタバミ		標準			○				
B	オオバコ		標準		○	○				
B	ニョイスミレ		別名	ツボスミレ		○				
B	エキサイゼリ		標準			○			写真撮影	写真で同定
B	ハルジオン		標準			○				
B	ヒメジョオン		標準			○				
B	スイバ		標準			○	○			
B	ドクゼリ		標準			○			採取同定	
C	未調査									今回この区間は調査を中止
D	記録無し									
E	カタバミ		標準			○				
E	ハルノノゲシ		別名	ノゲシ		○				
F	オニタビラコ		標準			○				
F	オランダミミナグサ		標準			○				
F	ミミナグサ		標準			○				
F	ヒメオドリコソウ		標準			○				
F	ノニガナ		標準			○				

【4 月】シートへの入力例

結果の活用事例

将来的には調査員の皆さんからいただいた調査結果を次のように活用することが可能です。長期モニタリング調査では、同じ場所で続けて調査をすることが大切です。無理せず、楽しく続けてください。

サイトごとの解析



各調査区間で記録された種の外来種・絶滅危惧種・その他在来種の種数の比率（中池見湿地での事例）。

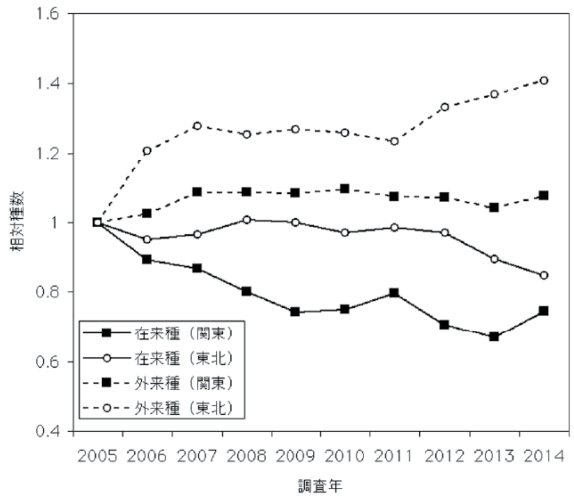
※この図から、山で囲まれた調査地の中でも、特にバイパス道路に隣接する調査区間で外来種の比率が高くなっていることが読みとれます。

	見られなくなった種	新たに出現した種
総種数	118	85
外来種	19	30
侵略的外来種	5	0
希少種	9	2
普通在来種	85	53
絶滅危惧種	アマナ ウキシバ ノタヌキモ アギナシ トリゲモ ヒメビシ キキョウ エビネ	ササクサ ヒメミソハギ
その他在来種	アシカキ エビモ オオトリゲモ オダルマ オトコエシ オナモミ オニナルコスゲ オミナエシ カセンソウ カンガレイ ゴキヅル ジュンサイ センブリ センボンヤリ ・ ・ ・	オオエノコロ オニユリ クサイ コバノカモノアシ ケイヌビエ スズメノギャヒキ ニシキソウ ノテンツキ ハイヌメリ ヒナガヤツリ ヒメオトギリ ヒメゴウソ ムシクサ ムラサキサギゴケ ・ ・ ・

1995～99 年と 2000～05 年のそれぞれの期間で記録された種の比較。

※見られなくなった種には、水辺・草地に生育する種が多く見られます。一方新しく見られるようになった種には外来種が多いようです。

全国レベルでの解析



10 年間の調査における外来種・在来種の種数（初年度を 1 とした相対値）の変化。関東地方・東北地方に属するサイトの平均値を示した。

※この図からは、在来種の種数は特に関東で減少傾向にあり、外来種数は東北地方で増加傾向にあることが読みとれます。種数の相対値ですので、関東地方では外来種は 2005 年時点で既に多くの種が確認されていたのかもしれません。

モニタリングサイト 1000 里地
調査マニュアル ver. 4.0

2026 年 11 月 発行

※本マニュアルは、モニタリングサイト 1000 里地調査検討委員会において、モニタリングサイト 1000 里地調査写真活用作業部会、および生態系総合モニタリング調査検討委員会の協力を得て作成したものです。

公益財団法人 日本自然保護協会
〒 104-0033　東京都中央区新川 1 -16-10　ミトヨビル 2 階
電話：03-3553-4101　　FAX:03-3553-0139

環境省自然環境局 生物多様性センター
〒 403-0005　山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾 5597- 1

※本マニュアルの著作権は 環境省 および (公財)日本自然保護協会に帰属します。